

都市計画学会関西支部若手研究部会 2024 年度活動報告
人口減少時代における計画的住宅地と農山漁村の新たな連携研究会

2025 年 3 月 31 日

文責：青木嵩

■チームメンバー

青木嵩（大阪大学：主査）

小島見和（福山市立大学）

林和典（近畿大学）

山本翔也（大阪大学）

■実施期間

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 1 日

■活動実態

2024 年 4 月 7 日 広島県府中市の農業・ワイナリーの経営に関する視察
6 月 24 日 和歌山県橋本市 橋本市農業振興課ヒアリング
7 月 2 日 和歌山県橋本市 JA 紀北かわかみヒアリング
8 月 19 日 和歌山県橋本市 農家ヒアリング①
21 日 和歌山県橋本市 農家ヒアリング②
23 日 Asian-Pacific Planning Society 2024@SEOUL にて発表
9 月 27 日 兵庫県三木市 フィールドワーク
10 月 8 日 兵庫県三木市 三木市縁結び課ヒアリング
11 日 兵庫県三木市 三木市農業振興課ヒアリング
11 月 2 日 兵庫県三木市 山田錦の里イベント参加
19 日 和歌山県橋本市 農家ヒアリング③
20 日 兵庫県三木市 農家ヒアリング①
12 月 10 日 兵庫県三木市 農家ヒアリング②
19 日 兵庫県三木市 農家ヒアリング③
2025 年 1 月 16 日 兵庫県三木市 農家ヒアリング④
2 月 1 日 兵庫県三木市 農家ヒアリング⑤
4 日 兵庫県三木市 農家ヒアリング⑥
7 日 和歌山県橋本市 農家ヒアリング④
8 日 和歌山県橋本市 農家ヒアリング⑤
27 日 シンポジウム開催

■ヒアリング調査に関わる結果

和歌山県橋本市にて計 5 回農業従事者にヒアリングを行い、新規就農ならびに通い農業に関わる知見を伺った。また橋本市役所の農業振興課および JA 紀北かわかみのご担当者より新規就農にかかる課題と条件、ならびに支える基盤としての果樹および自然農の存在を確認した。具体的には、果樹園は、田畑と比べて既に整備された基盤を引き継ぐのであれば参入しやすいこと、また自然農については指導できる人が橋本市内にあり、彼を通じて新しく参入してくる人が一定数存在するとされる。

兵庫県三木市では、計 6 回農業従事者にヒアリングを行い、通い農業の形態として 1) 自身が主たる従事者としての通い、2) 自身が兼業的従事者としての通い、3) 家族が兼業的従事者・サポート要員としての通いが確認できた。また市役所の縁結び課ならびに農業振興課からは山田錦への参入ハードルが高い点とその反面ネームバリューによる経済性の高さを伺った。

■Asian-Pacific Planning Society 2024@SEOUL について

2023 年度に実施した空間統計に基づくニュータウンにおける農業従事者数の増加傾向に関わる分析結果を国際会議で発表した。その際、同様の事象が今後台湾（特に台中・台南）で発言し得る可能性がある旨を Discussion にて伺った。なお本稿は、Urban and Regional Planning Review に投稿し、2025 年 2 月 16 日付で採択された。本項タイトルは下記のとおりである。

主題：What is the new neighbor connectivity of suburbanites with villages around?

副題：The possibility of working in a village and living in a suburb

■シンポジウムの実施について

2023 年度ならびに 2024 年度の調査報告と 2025 年以降の発展的・派生的調査の視座を得るため、本研究会主催で下記の通りシンポジウムを実施した。なお登壇者は本研究会メンバー 3 名に加えて宮城大学：友渕先生、兵庫県立人と自然の博物館：福本先生をお呼びし、コメントを和歌山大学：佐久間先生にお願いした。

シンポジウムタイトル：

「辺縁」のあらたな生活圏 人口減少時代における計画的住宅地と農山漁村の新たな連携

日時：2025 年 2 月 27 日 18：30～20：30

会場：大阪大学中之島センター

参加者は、登壇者・研究会メンバーを除いて 25 名であり、学識者のほか民間事業者や学生、農業従事者も参加いただいた。